

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

| | |
|---------|------------------|
| 事業所番号 | 3870201336 |
| 法人名 | 株式会社 シンコー |
| 事業所名 | ハートフルケアホーム あけぼの |
| 所在地 | 今治市室屋町6-1-9 |
| 自己評価作成日 | 平成 28 年 10 月 6 日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 松山市持田町三丁目8番15号 |
| 訪問調査日 | 平成28年10月24日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・明るく笑顔で『アットホーム』を心がけている ・毎日朝風呂に入れ健康維持と清潔保持に心がけている ・1人1人が発揮できるよう職員と入居者さんが助け合い生き生き生活出来るよう努めている ・いつまでも元気で歩けるよう『生活の中のリハビリ』等で筋力upに心がけている ・喜怒哀楽色んな感情があふれている。言いたい人動きたい人が多く躍動感がある ・『自分だったら、自分の親だったら』を常に思い言動・行動に心がけている ・『この人がいたら安心できる』と言ってもらえるように心がけている |
|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|---|
| <p>事業所は、住宅地の一角に立地する単独型のグループホームで、開設より11年目を迎える。開設当初より「利用者が生活の主体者である」ことを大切に、「自分や自分の親が来たいと思うようなホーム」づくりを目指している。職員は年間自己目標を設定し、サービスの向上に努めている。利用者は、日常生活の中で役割を持ちながら暮らし、食器の片付けやごみ捨て、洗濯物の取り入れと整理などかいがいしく働いている。また、開設当初から近所付き合いを心がけてきた結果良好な人間関係を築いており、近隣住民は運営推進会議や防災訓練に参加するなど協力的である。協力医は往診が困難な状況であるが、職員が早期に異常を発見して医師と連携して対応することで、適切な医療につないでいる。管理者と職員が想いを共有し、利用者が笑顔で活動的に過ごせるよう支援に務めている事業所である。</p> |
|---|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 |
|---|--|--|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 ハートフルケアホーム あけぼの

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)
氏名 越智 美春

評価完了日 平成 28 年 10 月 6 日

自己評価及び外部評価表

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|-------------------|------|--|--|-------------------------------|
| I.理念に基づく運営 | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | <p>(自己評価) 設内に掲示・各自名札ホルダーに携帯し共有、日々の実践につなげている。</p> <p>(外部評価) 職員が話し合っって作成した5項目にわたる理念には、利用者が生活の主体者であり、自立して自由に暮らしてほしいという思いが込められており、「自分や自分の親が来たいと思うホームづくり」を目指している。職員は3つの「さ」と5つの「あ」を行動指針として名札の裏に表記し、都度確認をするようにしている。また理念に基づき、自己目標を立て実践するよう努めている。</p> | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | <p>(自己評価) 駐車場が小学生の集合場所になっている。近所の方が『車を止めさせて』、介護の相談に来られたり使わなくなったオムツを頂いたり、『帰る』と言って外に行く利用者さんに『家は反対よ』と近所の八百屋さんに声をかけていただけようお願いしている。</p> <p>(外部評価) 事業所では開設当初から近所付き合いを大切に考え、隣家に対して事業所の駐車場使用の便宜を図ったり、介護相談に親身にのる等してきたことで、良好な人間関係を築いており、近隣住民は運営推進会議や防災訓練に参加するなど協力的である。利用者を戸外で発見した場合は近所の方が声をかけてくれたり、知らせしてくれるようになり、地域住民に受け入れられているという実感を持っている。また、定期的に踊りボランティアの訪問があり、利用者の楽しみになっている。</p> | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | <p>(自己評価) 近所の方、家族様の知人で介護で困っている方の相談・推進会議等で研修で学んだ事を発信している</p> | |

| 自己 評価 | 外部 評価 | 項 目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------|----------|---|--|-------------------------------|
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている | (自己評価) 職員も参加し感想を書いている。民生委員さん 近所の方 防災士さん 家族さんが参加され意見交換できている。会議 内容は一語一句記録しているのでそのまま意見を把握する事 ができる | |
| | | | (外部評価) 運営推進会議は、利用者や家族、隣人、民生委員、市職員等 の参加を得て、2か月に1回開催している。会議では、利用 者の生活状況や事業所の活動報告を行い、管理者は参加者全 員が必ず発言できるよう配慮しながら進行しており、自由な 意見交換が行われている。昨年度より地区防災士に参加して もらい、指導助言を得ることで避難方法の改善に繋げてい る。 | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる | (自己評価) 推進会議に参加して頂き報告したり、助言を頂いたり、解ら ない事があれば窓口に行ったり 電話で助言して頂いたりし ている | |
| | | | (外部評価) 市職員は運営推進会議に参加して事業所の実情を把握しており、職員は、分からないことや困ったことがあると担当課に 出向いて聞くことができる関係ができている。事業所は今治 市グループホーム協議会に参加しており、市の行政説明を聞 く機会がある。生活福祉担当者は年2回事業所を訪れ、地域 包括支援センター職員と共に後見人がいなくても入所できる 施設を探す等、連携して利用者の支援にあたっている。 | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる | (自己評価) 日中は玄関をオープンにして開放的な”あけぼの”を維持 している。社内研修で”身体拘束防止”について学んだり、 アンケートで自分や他者のケアを振り返る機会を設けたりし て身体拘束をしないケアにつないでいる。 | |
| | | | (外部評価) 事業所では職員に定期的にアンケートを実施して不適切ケア を行っていないか点検しており、職員は身体拘束の弊害につ いて理解して拘束をしないケアに努めている。寒冷期を除 き、事業所の玄関は開け放されており、利用者は自由に出入 りすることができる。転倒の危険がある利用者に対し、畳を 敷いて転落の危険を和らげる等の工夫をしたり、地域住民と の関係を生かして声かけや通報をお願いしている。 | |

| 自己 評価 | 外部 評価 | 項 目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------|----------|---|--|-------------------------------|
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | (自己評価) 社内研修やアンケートで日頃の自分を振り返る機会を随時設けている。虐待防止の指導はミーティングなどの時にあり職員同士で声掛け合い注意しあえる環境を常に目指している | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | (自己評価) 権利擁護・成年後見制度については入社の際の研修書類の中で記載されている為初めに学ぶ機会がある。実際成年後見制度を活用されている方がいる為実践的にも勉強できる。 | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | (自己評価) 本人さん家族さんに見学して頂き他者とお茶を共にしながらあけぼのの雰囲気を見て感じてもらっている。施設長(管理者)が本人、家族さんと話し合い説明し納得して(入居・解約)頂ける様にしている。 | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | (自己評価) 家族さん面会時に意見や要望を伺い申し送りノートで全員が把握するようにしている。推進会議で(家族全員ではないが)意見・要望等もいえる様司会者(施設長)が出席者全員に意見を言って頂ける様に進行している。その時出た意見は実践や運営できるか検討する。本人さんには年2回“私の姿”で要望を聞くようにしている | |
| | | | (外部評価) 職員は、年2回センター方式を活用して利用者の思いや要望を聞く機会を持っている。また、家族が面会に訪れた際に利用者の状態を報告し、家族の要望を聞くようにしており、出された意見は記録して職員間で共有している。運営推進会議にも家族が毎回参加しており、意見が言いやすいよう配慮して進行している。遠方の家族には毎月の便りに担当者の手紙を添えて送り、状態を伝えている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------------------------|------|--|--|-------------------------------|
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | (自己評価) 日頃から気軽に施設長(管理者)と話し合う機会がある。アンケート等でやりとりし全体の意見をまとめて反映させている | |
| | | | (外部評価) 幅広い年齢層の職員が在籍しており、職員は日常的に介護内容について気づいたことや意見を述べ、申し送りやモニタリング時に話し合っている。管理者は年2回職員アンケートを実施して、業務評価や悩み相談を行い、職員が意欲を持って働けるよう支援している。また、上層部へ定期的に報告相談を行う機会がある。事業所では職員研修に力を入れており、毎月計画的に実施して資質の向上に努めている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | (自己評価) 施設長(管理者)は労働時間・指定休等1人1人の状況にあわせ勤務表を組んでいる。1人1人が楽しく働けるよう環境にも気を配ったり、向上心をもって働けるよう努めている。また職員の体調に常に気を配られている。 | |
| 13 | | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | (自己評価) 施設長(管理者)は1人1人の力量を把握都度アドバイスしてくれる。社内研修や外部研修参加の機会もある。家族さんからも研修会参加の資料を頂き社内研修の資料として活用させてもらっている。 | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | (自己評価) 交流会や研修に参加し同業者と交流する機会はあるが近年相互訪問は行えていない。 | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | (自己評価) 入居後”私の姿”で本人の思いを職員1人1人が聞き記入しケースに閉じ皆が共有できるようにし、信頼関係が気づけるよう努めている。 | |

| 自己 評価 | 外部 評価 | 項 目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------|----------|--|---|-------------------------------|
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | (自己評価) 家族の生活状況に合わせサービス開始時によく話し合うようにしている。入居時”私の姿”で本人・家族さんの思い等を書いて頂きよい関係作りができるよう努めている。 | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | (自己評価) 金銭的な事も考慮し、本人・家族さんから頂いた情報で必要としている支援を提供させて頂けるよう努めている。 | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | (自己評価) 「出来る事があったら何でも言うてよ～」作業を手伝って頂いたり「あんたらがおってくれるけん助かるんよ」と言っ頂それぞれが出来の力を発揮し入居者さん同士も助け合いながら作業等して頂き、私達が助けて頂いている。 | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | (自己評価) 家族さんの都合に合わせて面会・外出等出来るようにしている。また病院受診等協力して頂いている。 | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | (自己評価) ドライブ時自宅の前を通ったり、元同僚・同級生・知人が面会されお茶を共にし思い出話をされている。来設された時一緒に写真を撮り葉書で郵送したり関係が続くよう努めている (外部評価) 入居後の日常会話の中から馴染みの人や場所の情報を聞いて記録し、職員間で共有している。8年振りに同僚が訪ねて来てくれたこともあり、訪問時撮影した写真を送り喜ばれている。馴染みの美容院へ家族に付き添われて行く利用者もいる。また、利用者同士が協力して過ごす生活の中で、新たな馴染みの関係も生まれている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------------------------------------|------|---|--|-------------------------------|
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | (自己評価) 仲良く話していたり、言い合ったり、自ら話しかける事が出来ない方でも誰かが話しかけたり、お風呂の後ドライヤーや靴下をはかせてあげたり一人が孤立しないよう関われるよう支援している | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | (自己評価) 退居された後も推進会議に参加して下さっていた。退居された方の息子さんが帰省された時の駐車、遺影の写真をとりに来られたり等必要に等応じて相談や支援に努めている | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | (自己評価) 本人の発した言葉 会話をケースに記入したり、年2回『私の姿』で意向確認している。表現できにくい方は表情や行動・しぐさ等から意向の把握に努めている (外部評価) 話しやすい雰囲気大切に、日頃の会話の中から利用者の思いを聞き取るよう努めている。利用者同士の会話の中から気づくこともあり、把握した内容は記録して職員間で共有している。また、年2回職員全員が利用者一人ひとりの「私の姿」を記載して、多面的に利用者の希望や要望を把握するよう努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | (自己評価) 入居時にご本人、家族様、関係者から情報を伺っているが、一緒に生活していく中でご本人から話して下さったり家族様に聞いた事は記録し全員で共有できるようにしている | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | (自己評価) パワチェック・生活記録・ケア行動チェック等細かく記録する事を心がけ日々のあれ？おや？と思うような変化に早く気づけるよう現状の把握に努めている | |

| 自己 評価 | 外部 評価 | 項 目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------|----------|--|---|-------------------------------|
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | (自己評価) 本人の生活状況、言動と日頃から家族さんとコミュニケーションをとり半年に1回モニタリングし”私の姿”から課題を引き出し1人1人があげたものを作成者がまとめ計画作成している | |
| | | | (外部評価) 家族面会時や電話で意向を確認し、本人と家族の要望を取り入れながら、職員で話し合って介護計画を作成している。職員は介護計画を意識しながらケアを行い、毎日の実施記録に記載している。状態の変化がある時はその都度、ない場合は6か月に1回職員全員でモニタリングを行い、計画の見直しを行っている。介護計画は家族面会時に説明し、同意を得ている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | (自己評価) ケアチェック・生活記録に言葉や会話を細かく記録している。変化 気づきを記録・申し送り等で共有し実践やケアプランの見直しに活かしている | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | (自己評価) お孫さんが生まれそうな時は立会い出産の計画、退院時には本人と病院へ同行し孫を抱かせる。家族さんの子連れ出勤等その時できる範囲内のサービスに取り組んでいる | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | (自己評価) 施設長（管理者）とスーパーへの買い物に行ったり月1回踊りとハーモニカのボランティアさんがきて下さり 口ずさんだり一緒に踊っている | |

| 自己 評価 | 外部 評価 | 項 目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------|----------|---|--|-------------------------------|
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している | <p>(自己評価) ご本人・家族様の希望を大切にかかりつけ医を決めても らっている。施設の協力医療機関をかかりつけにされている 方は施設長同行で月1回受診し状態の変化等報告相談してい る。又心療内科も月1回受診、状態によっては詳細な情報の 報告をし薬の調整をしてもらっている。協力医以外は家族様 にお願いし受診前後の報告し情報の共有している</p> <p>(外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医に継続して通院するこ とができる。協力医への通院を希望する利用者は職員が付き 添うが、心療内科や歯科等専門科への受診は家族に付き添い を依頼しており、情報を共有して健康管理にあたっている。 職員は異常の早期発見に努め、丁寧に家族と連絡を取りなが ら適正な医療が受けられるよう支援している。</p> | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している | <p>(自己評価) 看護師はいないため気づいた事 変化時は施設長へ報告し 家族へ連絡・相談し意向確認し受診へつなげている。</p> | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | <p>(自己評価) 家族様・病院関係者と連絡・相談し早期に退院できるよう 関係作りをしている</p> | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所ですることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる | <p>(自己評価) 契約時に『立てなくなった。歩けなくなった時は此处での 生活が難しくなる』事を家族に説明している。推進会議にも とりあげたり、職員に” 何処までケアできるか？” アンケ ートをとっている。状態の変化に応じて、家族様・本人の意 向も聞きながら早い段階から話し合いをしている</p> <p>(外部評価) 入居時に事業所では看取りを行わない方針であることを説明 し、状態の変化があった際は早期に本人や家族と相談して、 適切な施設に転入所ができるよう支援している。以前利用者 と家族の強い希望があり、終末期になるまで介護をしたケ ースはある。管理者は職員に対し看取りを実施できる条件につ いてアンケートを実施し、職員の意見を汲み取りながら対応 している。</p> | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------------------------------|------|--|--|---|
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | (自己評価) 救命救急講習の受講はしているが定期的ではない。ヒヤリ・事故報告時に全員が反省点・今後の対策を考え 施設長の指導を仰ぎ事故防止に努めている。が全ての職員が応急手当できるとは言えないので個々が身につける必要がある。 | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | (自己評価) 年1回5月に地域の方参加での避難訓練（夜間想定火災）をしている。昨年より防災士さんも参加して頂き担架の作り方や実際に消火器で水を飛ばしたりしている。年に何度か担当を決め実際に入居者さんも参加して頂き夜間・日中想定訓練をしている。 (外部評価) 暑い時期を除いて毎月のように避難訓練を実施している。特に夜間想定での火災時避難訓練を利用者も参加して実践的に行っている。昨年より地区防災士に働きかけ、協力を得て訓練を実施するようになり、より充実した避難訓練が実施できるようになっている。また、近隣住民に通報先になってもらい、訓練にも参加してもらう等の協力体制を構築している。水や食料等の災害時備蓄品を整備し、定期的に交換している。 | 管理者は災害対策の重要性を認識して実践的な避難訓練に取り組んでいることは高く評価できる。しかし、消防署立ち会いの下で訓練を実施した機会がないため、専門的立場から自主訓練の状況を評価してもらい、助言を得ることを期待したい。また、地区防災訓練に参加して動向を把握し、さらなる協力関係の構築に期待したい。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | (自己評価) ”自分だったらどんな？”を常に頭に置き1人1人それぞれその場にあった言葉かけをし誇りやプライバシーを損ねないよう心がけている (外部評価) 職員は利用者を常に自分や家族に置き換えて考え、利用者一人ひとりの尊厳を損なうことがないよう留意している。管理者は折りにふれ、利用者の長い人生に想いを馳せ、利用者が持つ知恵の素晴らしさを職員に伝えて尊ぶよう態度で示している。呼称については本人や家族に確認し、希望に沿った呼び方をしている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | (自己評価) 「何でも言って下さいね。教えて下さいね」と思いや希望を言いやすい環境作りをしている。表出しにくい方は日々関わりの中から思いをくみとれるよう心がけている | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|--|--|-------------------------------|
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | (自己評価) 1人1人のペースを大切にしているが、職員ペースになってしまう時もある。”あせらず、あわてず”とあけぼのの目標であるので振り返りながら接している。殆どの方が”自分らしく”日々過ごせるよう支援している。 | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | (自己評価) 自身で服を選んだり外出着に着替えたり整髪・髭剃りをし みだしなみやお洒落ができるよう支援している | |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | (自己評価) 「出来る事があつたら言うてよ」と言って下さるので、大根やきゅうりのスライス 玉葱皮むき、台拭き、箸配り等それぞれの力量にあつた作業をしてもらっている。香り・見た目から”美味しそう!”と食欲がわくよう彩や盛り付けにも気をつけている。 (外部評価) 調理専任の職員が献立を立て、各ユニットで調理している。誕生日にはちらし寿司や赤飯を用意してお祝いしている。利用者は率先して野菜の下ごしらえや食後の片付け等を行い、職員はその都度感謝の言葉を返している。職員も一緒に食卓を囲んで和やかな食事風景である。食事は、面会に訪れた家族にも試食してもらうこともある。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | (自己評価) 1人1人の希望や状態に合わせて食事・水分量の増減をしている。なるべく自力で自分のペースで食べていただくようにしている。水分量はチェック表で確認し1日1500cc摂れる様にしている | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | (自己評価) 毎食後それぞれに応じてケアしている。殆どの方が毎晩ポ リデントをし朝まではずしている。 | |

| 自己 評価 | 外部 評価 | 項 目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------|----------|---|---|-------------------------------|
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | (自己評価) チェック表で確認しながらトイレで排泄できるよう1人1人にあつた支援をしている。ご本人の言動に注意しサインを見逃さないようにさりげなく声かけしている。状態や体調に合わせパットの使用をしている。 | |
| | | | (外部評価) 各ユニットにトイレが2か所設置されており、分かりやすいよう表示がされている。職員は、一人ひとりの排泄パターンを把握して声かけ誘導し、排泄の自立を念頭に支援しており、利用者全員が日中夜間ともにトイレで排泄できている。頻回に清掃を行って、不快な臭いが残らないよう心がけている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | (自己評価) 野菜中心の食事・牛乳・野菜ジュースの摂取、作業や運動をして頂き十分な睡眠（6から7時間の睡眠で便が作られる）でなるべく自然排便を促しているが服薬がひつような方もいる | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | (自己評価) 希望の時間は難しいが、体調不良時以外は全員毎日入っている。拒否のある方は馴染みの関係の方と声を掛け合っ一緒に入ってもらったりしている。職員の人数の関係で朝風呂になっている | |
| | | | (外部評価) ほとんどの利用者が、毎日和式浴槽に入浴している。当初は勤務体制午後入浴をしていたが、今では朝風呂が日課になっており、職員は朝の活力になっていると感じている。利用者の多くが歩行可能なレベルであり、福祉用具を活用しながら安全に湯に浸かれるよう支援している。仲良しの利用者が一緒に入浴することもあり、楽しみになっている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | (自己評価) 生活習慣で夜間1人が不安な方は家族さんに相談させて頂きフロア畳で寝てもらっている。日中は居室 フロア畳 ソファ 赤椅子 玄関のベンチ 窓際と思いいの場所で過ごして頂いている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|--|--|-------------------------------|
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | (自己評価) いつでも確認できるよう薬情を個々のファイルに閉じている。変更があれば”記録”申し送りし皆が周知できるようにしている。特に診療内科の薬開始 変更時には症状を詳細に記録し短期間で受診し医師にケースを読んでもらって薬の調整をしてもらっている。 | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | (自己評価) 1日2回の喫茶タイム、コーヒーとお菓子を食べながら他者やパート-とゆっくりと過ごしたり、職員と一緒に喫煙、晩酌(家族さんと相談し) 毎日のドライブで気分転換。それぞれにあった役割があり活発である。 | |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | (自己評価) 家族様の協力があり外泊 買い物 外食 お墓参り等に行かれている方もいる。 | |
| | | | (外部評価) 天気の良い日もそうでない日も、利用者の気分転換を目的に毎日のようにドライブに出かけている。当日の行先は職員と利用者が話し合っ決めて、2台の車輦に分かれて出かけている。道の駅や隣町などを巡り、途中でおやつを買って車中で食べたり、下車して買い物をする利用者もいるなど、楽しい日課になっている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | (自己評価) 家族さんと相談し 毎週娘婿さんと外出時は¥1000渡し買い物を楽しまれている。 | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | (自己評価) 面会に来られた時に一緒に写真を撮らせて頂き写真つきの葉書に本人名前を書いてもらい送っている | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|--|--|-------------------------------|
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | (自己評価) 窓から光が入って明るい。1日3回のトイレ掃除を行っている。排泄処理後に汚物の処理（家の中におかない）をしているため清潔は保たれ、不快な臭いはない。フロアに台所があるため食事の臭いや音がある。セタの短冊を飾ったり 利用者が摘んできた花を飾ったりしている | |
| | | | (外部評価) リビングは明るく、オープンキッチンと椅子席、ソファ席や畳スペースがあり、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。壁には利用者の願いを書いた笹飾りの短冊や、大きな日めくりカレンダーや利用者の塗り絵作品などが飾られている。階段の壁面には行事写真や赤ちゃんの写真が掲示されており、利用者は写真を楽しみながら階段の昇降をしている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | (自己評価) 気の合う仲間とソファ 赤椅子 ベンチ 畳で過ごしたり一人になりたい時は それぞれが思い思いの場所で過ごしているが 一人で過ごすのが難しい方もいる | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | (自己評価) 家で使っていた馴染みのものを持ってきて頂くようお願いしている。孫さんの写真を飾ったり tv 机を置いたりしている | |
| | | | (外部評価) エアコンとベッド、整理用戸棚が備え付けられており、洗面所設備がある。利用者は思い思いにタンスや机、椅子等の家具やテレビを持ち込み、家族写真やぬいぐるみを飾ったり、小型の仏壇を持ち込み祈りを欠かさないなど、個性的で居心地のいい部屋になっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | (自己評価) 自室入り口の名前 トイレ 浴室がわかるようにしている。夜間はトイレのみ電気をつけ安心して生活出来るよう心がけている | |

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

| | |
|---------|------------------|
| 事業所番号 | 3870201336 |
| 法人名 | 株式会社シンコー |
| 事業所名 | ハートフルケアホーム あけぼの |
| 所在地 | 今治市室屋町6-1-9 |
| 自己評価作成日 | 平成 28 年 10 月 6 日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 松山市持田町三丁目8番15号 |
| 訪問調査日 | 平成28年10月24日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・入居者様1人1人が個々の得意な事を活かし役割、やりがいのある生活をしている ・毎日ドライブに出かけている ・毎日入浴され清潔保持と健康維持に心がけている ・入居者様、家族様、どなたでも気軽に出入りできるように玄関はオープンにしている ・理念をつねに頭におき『この人がここにいたら安心できる』という存在になれるよう努めている ・1人1人1日1回は大笑いできている ・入居者様と職員1人1人が明るく楽しく共にパートナーとして生活している ・施設長がいつでも的確なアドバイスをしてくれる |
|--|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| <p>事業所は、住宅地の一角に立地する単独型のグループホームで、開設より11年目を迎える。開設当初より「利用者が生活の主体者である」ことを大切にし、「自分や自分の親が来たいと思うようなホーム」づくりを目指している。職員は年間自己目標を設定し、サービスの向上に努めている。利用者は、日常生活の中で役割を持ちながら暮らし、食器の片付けやごみ捨て、洗濯物の取り入れと整理などがいがいしく働いている。また、開設当初から近所付き合いを心がけてきた結果良好な人間関係を築いており、近隣住民は運営推進会議や防災訓練に参加するなど協力的である。協力医は往診が困難な状況であるが、職員が早期に異常を発見して医師と連携して対応することで、適切な医療につないでいる。管理者と職員が想いを共有し、利用者が笑顔で活動的に過ごせるよう支援に努めている事業所である。</p> |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 |
|---|--|--|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 ハートフルケアホーム あけぼの

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)
氏名 越智 美春

評価完了日 平成 28 年 10 月 6 日

自己評価及び外部評価表

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|-------------------|------|--|---|-------------------------------|
| I.理念に基づく運営 | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | <p>(自己評価) 出勤時全員が見える所に掲示・各自名札ホルダーに携帯している。理念・ホーム・自身の年間目標を常に頭におき、共有、日々の実践につなげている。</p> <p>(外部評価) 職員が話し合っって作成した5項目にわたる理念には、利用者が生活の主体者であり、自立して自由に暮らしてほしいという思いが込められており、「自分や自分の親が来たいと思うホームづくり」を目指している。職員は3つの「さ」と5つの「あ」を行動指針として名札の裏に表記し、都度確認をするようにしている。また理念に基づき、自己目標を立て実践するよう努めている。</p> | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | <p>(自己評価) 近所の方や通りがかりの方へのあいさつ、近所の方が駐車場を利用されたり、以前入居されていた方の息子さんが相談にこられたりしている</p> <p>(外部評価) 事業所では開設当初から近所付き合いを大切に考え、隣家に対して事業所の駐車場使用の便宜を図ったり、介護相談に親身にのる等してきたことで、良好な人間関係を築いており、近隣住民は運営推進会議や防災訓練に参加するなど協力的である。利用者を戸外で発見した場合は近所の方が声をかけてくれたり、知らせてくれるようになり、地域住民に受け入れられているという実感を持っている。また、定期的に踊りボランティアの訪問があり、利用者の楽しみになっている。</p> | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | <p>(自己評価) 近所の方、家族様の知人で介護で困っている方の相談・推進会議等で研修で学んだ事を発信している</p> | |

| 自己 評価 | 外部 評価 | 項 目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------|----------|---|--|-------------------------------|
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | (自己評価) 2ヶ月に1回各フロア1人職員も参加し感想を書いている。民生委員さん 近所の方 防災士さん 家族さんが参加されそれぞれの方が率直な意見をざっくばらんに話し合っている。会議内容は全員が目を通しサービス向上できるよう努めている。 | |
| | | | (外部評価) 運営推進会議は、利用者や家族、隣人、民生委員、市職員等の参加を得て、2か月に1回開催している。会議では、利用者の生活状況や事業所の活動報告を行い、管理者は参加者全員が必ず発言できるよう配慮しながら進行しており、自由な意見交換が行われている。昨年度より地区防災士に参加してもらい、指導助言を得ることで避難方法の改善に繋がっている。 | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | (自己評価) 推進会議に参加して頂き報告したり、助言を頂いたり、解らない事があれば窓口に行ったり 電話で助言して頂いたりしている | |
| | | | (外部評価) 市職員は運営推進会議に参加して事業所の実情を把握しており、職員は、分からないことや困ったことがあると担当課に出向いて聞くことができる関係ができています。事業所は今治市グループホーム協議会に参加しており、市の行政説明を聞く機会がある。生活福祉担当者は年2回事業所を訪れ、地域包括支援センター職員と共に後見人がいなくても入所できる施設を探す等、連携して利用者の支援にあたっている。 | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | (自己評価) アンケートや研修等で学ぶ機会があり理解している。日中玄関は施錠せずいつでも誰でも気軽に出入りできるようオープンにしている。フロアの入り口はチャイムが鳴るようにしている | |
| | | | (外部評価) 事業所では職員に定期的にアンケートを実施して不適切ケアを行っていないか点検しており、職員は身体拘束の弊害について理解して拘束をしないケアに努めている。寒冷期を除き、事業所の玄関は開け放されており、利用者は自由に出入りすることができる。転倒の危険がある利用者に対し、畳を敷いて転落の危険を和らげる等の工夫をしたり、地域住民との関係を生かして声かけや通報をお願いしている。 | |

| 自己 評価 | 外部 評価 | 項 目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------|----------|---|--|-------------------------------|
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている | (自己評価) 社内研修やアンケートを実施しており職員相互で振り返りや確認できるようにしている。日々の中でも都度確認している | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | (自己評価) 権利擁護・成年後見制度については入社の際の研修書類の中で記載されている為初めに学ぶ機会がある。実際成年後見制度を活用されている方がいる為実践的にも勉強できる。 | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | (自己評価) 本人さん家族さんに見学して頂き他者とお茶を共にしながらあけぼのの雰囲気を見て感じてもらっている。施設長(管理者)が本人、家族さんと話し合い説明し納得して(入居・解約)頂ける様にしている。 | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | (自己評価) 家族さん面会時に意見や要望を伺い申し送りノートで全員が把握するようにしている。推進会議で(家族全員ではないが)意見・要望等もいえる様司会者(施設長)が出席者全員に意見を言って頂ける様に進行している。その時出た意見は実践や運営できるか検討する。本人さんには年2回“私の姿”で要望を聞くようにしている | |
| | | | (外部評価) 職員は、年2回センター方式を活用して利用者の思いや要望を聞く機会を持っている。また、家族が面会に訪れた際に利用者の状態を報告し、家族の要望を聞くようにしており、出された意見は記録して職員間で共有している。運営推進会議にも家族が毎回参加しており、意見が言いやすいよう配慮して進行している。遠方の家族には毎月の便りに担当者の手紙を添えて送り、状態を伝えている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|-----------------------------|------|--|--|-------------------------------|
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | (自己評価) 施設長(管理者)がアンケートをとり職員の意見や提案を聞く機会がある。 | |
| | | | (外部評価) 幅広い年齢層の職員が在籍しており、職員は日常的に介護内容について気づいたことや意見を述べ、申し送りやモニタリング時に話し合っている。管理者は年2回職員アンケートを実施して、業務評価や悩み相談を行い、職員が意欲を持って働けるよう支援している。また、上層部へ定期的に報告相談を行う機会がある。事業所では職員研修に力を入れており、毎月計画的に実施して資質の向上に努めている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | (自己評価) 施設長(管理者)が意見・要望をきいて下さりやりがいをもって働けるよう、困っている事等言いやすい雰囲気がある。少しでも働きやすい環境に出来るよう頑張っているのもその気持ちに答えられる様に努めたい。 | |
| 13 | | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | (自己評価) 毎月研修がありレポート提出によりスキルアップにつながっている。外部研修への参加を促したり日々の実践の中でアドバイスして頂き実務に活かしている | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | (自己評価) 推進会議に青空の施設長さんが参加したり他施設との連携もとれている。 | |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | (自己評価) センター方式(私の姿)で要望を聞くようにしている。日々の会話や質問等で傾聴し信頼関係が築けるよう努めている | |

| 自己 評価 | 外部 評価 | 項 目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------|----------|--|--|-------------------------------|
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | (自己評価) 家族の生活状況に合わせサービス開始時によく話し合うようにしている。入居時”私の姿”で本人・家族さんの思い等を書いて頂き安心して任せていただけるよう努力している | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | (自己評価) 金銭的な事も考慮し、本人・家族さんから頂いた情報で必要としている支援を提供させて頂けるよう努めている。 | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | (自己評価) 「私やります～できる事はやらせて下さいね。、またお願いします。毎日が勉強ですから」と箱折 洗濯干し取り込み たたみ モップ 掃除機等々それぞれが力を発揮され利用者さん同士が助け合いながら生活している。私達パートナーが日々助けて頂いている | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | (自己評価) 家族さんの都合に合わせて自由に面会・外出等出来るようにしている。また病院受診等協力して頂いている。携帯電話で家族様と連絡をとっている方もいる | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | (自己評価) 親戚や知人の来設、姉妹や娘の家に行ったり自宅のほうをドライブしたりしている。来設された時一緒に写真を撮り葉書で郵送したり関係が続くよう努めている (外部評価) 入居後の日常会話の中から馴染みの人や場所の情報を聞いて記録し、職員間で共有している。8年振りに同僚が訪ねて来てくれたこともあり、訪問時撮影した写真を送り喜ばれている。馴染みの美容院へ家族に付き添われて行く利用者もいる。また、利用者同士が協力して過ごす生活の中で、新たな馴染みの関係も生まれている。 | |

| 自己 評価 | 外部 評価 | 項 目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------------------------------------|----------|---|---|-------------------------------|
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | (自己評価) 1.2階の利用様が関わられるよう行き来したり、食器の片付けや洗濯物の取り込みやたたみ、箱折を一緒にしてもらったり利用者様同士が支えあいながら日々過ごせるよう努めている | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | (自己評価) 退居された後も推進会議に参加して下さっていた。退居された方の息子さんが帰省された時の駐車、遺影の写真をとりに来られたり等必要に等応じて相談や支援に努めている | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | (自己評価) 会話や表情をケースに記入したり、年2回『私の姿』で意向確認している。表現できにくい方は表情や行動・しぐさ等から意向の把握に努めている (外部評価) 話しやすい雰囲気を大切に、日頃の会話の中から利用者の思いを聞き取るよう努めている。利用者同士の会話の中から気づくこともあり、把握した内容は記録して職員間で共有している。また、年2回職員全員が利用者一人ひとりの「私の姿」を記載して、多面的に利用者の希望や要望を把握するよう努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | (自己評価) 入居時にご本人、家族様、関係者から情報を伺っているが、一緒に生活していく中でご本人から話して下さったり家族様に聞いた事は記録し全員で共有できるようにしている | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | (自己評価) バイタルチェック・生活記録・ケア行動チェック等細かく記録する事を心がけて現状の把握に努めている | |

| 自己 評価 | 外部 評価 | 項 目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------|----------|--|---|-------------------------------|
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | (自己評価) 本人の生活状況、言動と日頃から家族さんとコミュニケーションをとり半年に1回モニタリングし”私の姿”から課題を引き出し1人1人があげたものを作成者がまとめ計画作成している | |
| | | | (外部評価) 家族面会時や電話で意向を確認し、本人と家族の要望を取り入れながら、職員で話し合って介護計画を作成している。職員は介護計画を意識しながらケアを行い、毎日の実施記録に記載している。状態の変化がある時はその都度、ない場合は6か月に1回職員全員でモニタリングを行い、計画の見直しを行っている。介護計画は家族面会時に説明し、同意を得ている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | (自己評価) ケアチェック・生活記録に言葉や会話を細かく記録している。変化 気づきを記録・申し送り等で共有し実践やケアプランの見直しに活かしている | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | (自己評価) 家族様同士の関係性で面会の制限の相談・家族さんが付き添い出来ない時の家政婦さんや実費での訪問の事業所探し等柔軟に対応できるよう努めている | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | (自己評価) 施設長（管理者）とスーパーへの買い物に行ったり月1回踊りとハーモニカのボランティアさんがきて下さり 口ずさんだり一緒に踊っている | |

| 自己 評価 | 外部 評価 | 項 目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------|----------|--|---|-------------------------------|
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している | (自己評価) ご本人・家族様の希望を大切にかかりつけ医を決めても らっている。施設の協力医療機関をかかりつけにされている 方は施設長同行で月1回受診し状態の変化等報告相談してい る。又心療内科も月1回受診、状態によっては詳細な情報の 報告をし薬の調整をしてもらっている。協力医以外は家族様 にお願いし受診前後の報告し情報の共有している | |
| | | | (外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医に継続して通院するこ とができる。協力医への通院を希望する利用者は職員が付き 添うが、心療内科や歯科等専門科への受診は家族に付き添い を依頼しており、情報を共有して健康管理にあたっている。 職員は異常の早期発見に努め、丁寧に家族と連絡を取りなが ら適正な医療が受けられるよう支援している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している | (自己評価) 看護師はいないため気づいた事 変化時は施設長へ報告し 家族へ連絡・相談し意向確認し受診へつなげている。また協 力病院受診時に医師や看護師さんへ相談させてもらったり、 総師長さんから今治地区看護職員継続教育検討会への研修会 参加への声かけをさせていただいている | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | (自己評価) 家族様・病院関係者と連絡・相談し早期に退院できるよ う関係作りをしている | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる | (自己評価) 契約時に『立てなくなった。歩けなくなった時は此処での 生活が難しくなる』事を家族に説明している。推進会議にも とりあげたり、職員に” 何処までケアできるか？” アンケ ートをとっている。状態の変化に応じて、家族様・本人の意向 も聞きながら早い段階から話し合いをしている | |
| | | | (外部評価) 入居時に事業所では看取りを行わない方針であることを説明 し、状態の変化があった際は早期に本人や家族と相談して、 適切な施設に転入所ができるよう支援している。以前利用者 と家族の強い希望があり、終末期になるまで介護をしたケ ースはある。管理者は職員に対し看取りを実施できる条件につ いてアンケートを実施し、職員の意見を汲み取りながら対応 している。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------------------------------|------|--|--|---|
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | (自己評価) 救命救急講習は受けているが定期的ではない。事故・ヒヤリハット報告時は1人1人が反省 今後の対策を考えている。応急手当で解らない事は都度アドバイスしてくれる | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | (自己評価) 年1回5月に地域の方参加での避難訓練（夜間想定火災）をしている。昨年からは防災士さんも参加して頂き担架の作り方や実際に消火器で水を飛ばしたりしている。年に何度か担当を決め実際に入居者さんも参加して頂き夜間・日中想定訓練をしている。 (外部評価) 暑い時期を除いて毎月のように避難訓練を実施している。特に夜間想定での火災時避難訓練を利用者も参加して実践的に行っている。昨年より地区防災士に働きかけ、協力を得て訓練を実施するようになり、より充実した避難訓練が実施できるようになっている。また、近隣住民に通報先になってもらい、訓練にも参加してもらおう等の協力体制を構築している。水や食料等の災害時備蓄品を整備し、定期的に交換している。 | 管理者は災害対策の重要性を認識して実践的な避難訓練に取り組んでいることは高く評価できる。しかし、消防署立ち会いの下で訓練を実施した機会がないため、専門的立場から自主訓練の状況を評価してもらい、助言を得ることを期待したい。また、地区防災訓練に参加して動向を把握し、さらなる協力関係の構築に期待したい。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | (自己評価) ”自分だったらどんな？”を常に頭に置き1人1人それぞれその場にあった言葉かけをし誇りやプライバシーを損ねないよう心がけている。 (外部評価) 職員は利用者を常に自分や家族に置き換えて考え、利用者一人ひとりの尊厳を損なうことがないように留意している。管理者は折りにふれ、利用者の長い人生に想いを馳せ、利用者が持つ知恵の素晴らしさを職員に伝えて尊ぶよう態度で示している。呼称については本人や家族に確認し、希望に沿った呼び方をしている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | (自己評価) 「何でも言って下さいね。教えて下さいね」と思いや希望を言いやすい環境作りをしている。表出しにくい方は日々関わりや気持ちに寄り添いながら思いをくみとれるよう心がけている | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|---|---|-------------------------------|
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | (自己評価) 1人1人のペースを大切にしているが、職員ペースになってしまいう時もある。殆どの方が”自分らしく”日々過ごせるよう支援している。 | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | (自己評価) 化粧水をつけたりお化粧したり「今日はこっち着ようかなあ〜」自身で服を選んだり外出着に着替えたりドライブ時には帽子をかぶったりバックをもったり身だしなみを整えお洒落ができるよう支援している | |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | (自己評価) 時間がきたら台を拭いてくださる方、大根やきゅうりのスライス 玉葱皮むき、台拭き、箸配り食器の片付け等それぞれの力量にあった作業をしてもらっている。香り 見た目から”美味しそう！”と食欲がわくよう彩や盛り付けにも気をつけている。 | |
| | | | (外部評価) 調理専任の職員が献立を立て、各ユニットで調理している。誕生日にはちらし寿司や赤飯を用意してお祝いしている。利用者は率先して野菜の下ごしらえや食後の片付け等を行い、職員はその都度感謝の言葉を返している。職員も一緒に食卓を囲んで和やかな食事風景である。食事は、面会に訪れた家族にも試食してもらうこともある。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | (自己評価) 1人1人の希望や状態に合わせ食事・水分量の増減をしている。なるべく自力で自分のペースで食べていただくようにしている。水分量はチェック表で確認し1日1500cc摂れる様にしている | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | (自己評価) 毎食後それぞれに応じてケアしている。殆どの方が毎晩ボリデントをし朝まではずしている。 | |

| 自己 評価 | 外部 評価 | 項 目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|----------|----------|---|--|-------------------------------|
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | <p>(自己評価) チェック表で確認しながらトイレで排泄できるよう1人1人にあつた支援をしている。ご本人の言動に注意しサインを見逃さないようにさりげなく声かけし誘導している状態や体調に合わせパットの使用をしている。</p> <p>(外部評価) 各ユニットにトイレが2か所設置されており、分かりやすいよう表示がされている。職員は、一人ひとりの排泄パターンを把握して声かけ誘導し、排泄の自立を念頭に支援しており、利用者全員が日中夜間ともにトイレで排泄できている。頻回に清掃を行って、不快な臭いが残らないよう心がけている。</p> | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | <p>(自己評価) 適度な運動と野菜中心の食事、牛乳や野菜ジュースを飲んで頂き予防に取り組んでいるが服薬が必要な方もいる</p> | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | <p>(自己評価) 希望の時間は難しいが、体調不良時以外は全員毎日朝風呂に入っている。疎通がとりにくい方もいるが都度言葉かけ行い気持ちよく入浴して頂けるよう心がけている</p> <p>(外部評価) ほとんどの利用者が、毎日和式浴槽に入浴している。当初は勤務体制午後入浴をしていたが、今では朝風呂が日課になっており、職員は朝の活力になっていると感じている。利用者の多くが歩行可能なレベルであり、福祉用具を活用しながら安全に湯に浸かれるよう支援している。仲良しの利用者が一緒に入浴することもあり、楽しみになっている。</p> | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | <p>(自己評価) 持病等があり転倒の危険性がある方は本人・家族さんに相談させて頂きフロア畳で寝てもらっている。日中は居室 フロア畳 ソファ 赤椅子 玄関のベンチ 窓際と思いいの場所で過ごして頂いている。</p> | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|--|---|-------------------------------|
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | (自己評価) いつでも確認できるよう薬情を個々のファイルに閉じている。変更があれば”記録” 申し送りし皆が周知できるようにしている。特に診療内科の薬開始 変更時には症状を詳細に記録し短期間で受診し医師にケースを読んでもらって薬の調整をしてもらっている。 | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | (自己評価) 1日2回の喫茶タイム、コーヒーとお菓子を食べながら他者やパートとゆっくりと過ごしたり、晩酌（家族さんと相談し）毎日のドライブで気分転換。それぞれにあった役割があり活発である。 | |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | (自己評価) 家族様の協力があり買い物 外食等に行かれています。 (外部評価) 天気の良い日もそうでない日も、利用者の気分転換を目的に毎日のようにドライブに出かけている。当日の行先は職員と利用者が話し合っ決めて、2台の車輦に分かれて出かけている。道の駅や隣町などを巡り、途中でおやつを買って車中で食べたり、下車して買い物をする利用者もいるなど、楽しい日課になっている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | (自己評価) 家族さんと相談し自分でお金（少額）を持っている方もいる。施設長と一緒に買い物に行き好きなものを買って自身で支払いをされている方もいる | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | (自己評価) 面会に来られた時に一緒に写真を撮らせて頂き写真つきの葉書に本人名前を書いてもらい送ったり、携帯電話で自由に話したり、娘さんから電話がかかってくる方もいる | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ) |
|------|------|--|---|-------------------------------|
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | <p>(自己評価) 窓から光が入って明るい。1日3回のトイレ掃除を行っている。排泄処理後に汚物の処理（家の中におかない）をしているため清潔は保たれ、不快な臭いはない。セタの短冊を飾ったり 階段に写真をはったりしている</p> <p>(外部評価) リビングは明るく、オープンキッチンと椅子席、ソファ席や畳スペースがあり、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。壁には利用者の願いを書いた笹飾りの短冊や、大きな日めくりカレンダーや利用者の塗り絵作品などが飾られている。階段の壁面には行事写真や赤ちゃんの写真が掲示されており、利用者は写真を楽しみながら階段の昇降をしている。</p> | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | <p>(自己評価) 気の合う仲間とソファ 赤椅子 ベンチ 畳で過ごしたり一人になりたい時は それぞれが思い思いの場所で過ごしているが 一人で過ごすのが難しい方もいる</p> | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | <p>(自己評価) 家で使っていた馴染みのものを持ってきて頂くようお願いしている。ひ孫さんの写真を飾ったり tv 仏壇を置いている方もいる</p> <p>(外部評価) エアコンとベッド、整理用戸棚が備え付けられており、洗面所設備がある。利用者は思い思いにタンスや机、椅子等の家具やテレビを持ち込み、家族写真やぬいぐるみを飾ったり、小型の仏壇を持ち込み祈りを欠かさないなど、個性的で居心地のいい部屋になっている。</p> | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | <p>(自己評価) 自室入り口の名前 トイレ 浴室がわかるようにしている。夜間はトイレのみ電気をつけ安心して生活出来るよう心がけている</p> | |